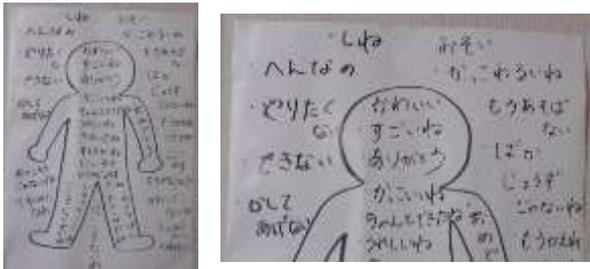


## 教材・支援機器活用実践事例

	実施年度	H28年度	
授業について	教科名等	人の気持ちがあったかくなる言葉、人が傷つく言葉	
	単元・題材名		
	かかわりにおける教師のねらい	人の気持ちがあったかくなる言葉、傷つく言葉について、子どもが理解して、正しい言葉遣いを身につけることができる。	
	かかわりにおける子どもの目標	言葉遣いに気をつけて話すことができる。	
子どもについて	学級・学校・学年	幼稚園	
	対象の障がい (種別・診断名等)	クラス全体	
	授業形態	集団・個別	
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	友だちや相手が傷つく言葉を話してしまうことで、トラブルが増える。どんな言葉が良くて、どんな言葉が傷つくのか、気づかない様子である。	
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	「ビーイング」 (模造紙)	
	活用のねらい	<p>○言葉遣いについて、言葉による指導だけでなく、人の体の輪郭を書き、あったかくなる言葉は体の中、傷つく言葉は体の外に書き、言葉によって人がどんな気持ちになるのかを視覚的に見えるようにした。</p> <p>○生活の中で、普段使っている言葉を書き込むことで、自分の言葉が相手にとってどんな気持ちになるのかをフィードバックして確認するようにした。</p>	
授業における支援 ・教材の配慮事項		<p>○クラス全体で振り返りができるように、教室の見える場所にはって、その都度、確認するようにした。</p> <p>○クラス全体で言葉を書き込むようにした。</p>	
子どもの変容や評価		<p>○「ビーイングの表」を一緒に確認することで、本人も視覚的に示されているので実感、納得している様子が見られた。クラス全体で相手にとって気持ちが良くなる言葉、傷つく言葉について、気をつけて話すようになった。保護者から「すごい言葉遣いが丁寧になりました。」と話を聞くなど、家庭でも変容が見られるようになった。</p> <p>○クラス全体で共通理解したことで、本人にとっても視覚的にわかる環境となり、意識しようとする姿につながっていった。</p>	